

IX 巻末資料

1. 伊勢原市地域景観資源

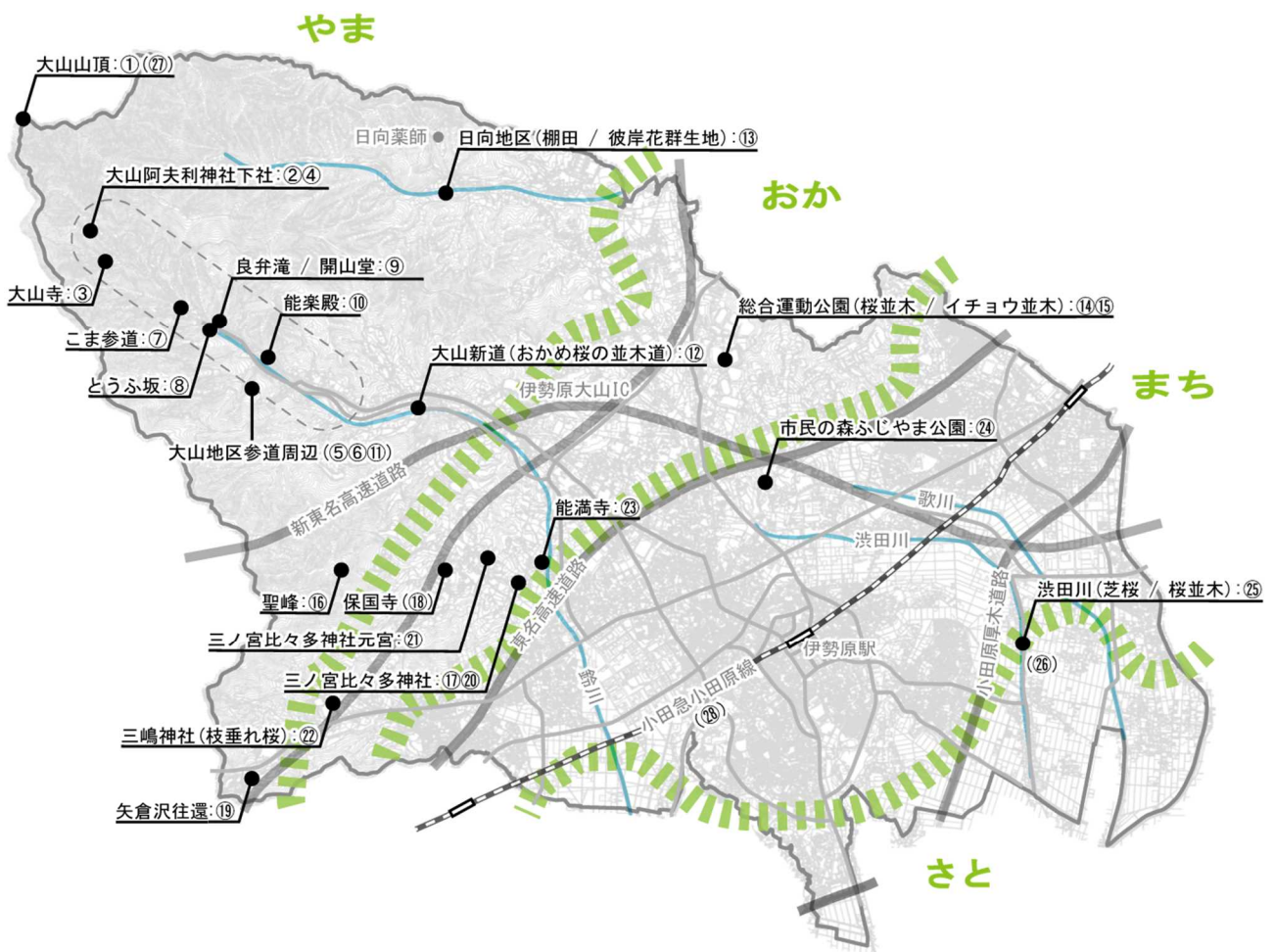
(1) 地域景観資源一覧

本市では、多くの人に親しまれている景観を市民の財産として守り、活用するため、景観条例第29条の規定に基づく地域景観資源登録制度を設けています。現在、以下の計28件が地域景観資源に登録されています（令和6年3月時点）。

地区名	NO	登録名称	景観資源の概要	解説	
大山	1	大山山頂からの眺望	海拔1,252mの山頂からの眺望。晴れた日の眺めは絶景。	P34 参照	
	2	大山阿夫利神社下社からの眺望	ミシュラン2つ星評価の眺望。初日の出や夜景なども楽しめる、伊勢原を代表する眺望景観。		
	3	大山寺の紅葉	深紅に染まる大山秋の伊勢原を代表する景観で、夜はライトアップを実施している。		
	4	大山阿夫利神社下社	大山の中腹、標高約700mに位置し、新緑、夏山、紅葉、雪景色と季節により異なる表情を楽しむことができる。		
	5	大山絵とうろうまつり	8月中旬に開催。地元で製作された絵とうろうが約3kmにわたり大山阿夫利神社からの夜景とともに演出し、魅惑的な景観を作り上げる。	P35 参照	
	6	大山桜	樹齢400年を超え、可憐な桜の美しさと大きな幹の力強さを見ることができる。		
	7	こま参道	362段の階段と27の踊り場からなり、玉垣や石垣などの沿道風景が見られる。		
	8	とうふ坂	約300mの大山講の旧参道で、古くからの旅館が連なるまちなみは、大山詣りの風情や江戸情緒を感じさせる印象的なものとなっている。		
	9	良弁滝と開山堂	大山詣りの禊をしたとされる滝で、江戸時代の浮世絵にもたびたび登場する。		
	10	大山火祭新能と能楽殿	10月上旬に開催。能舞台がかがりに火に照らされ、大山を背景に幻想的な風景となる。		
	高部屋	11	大山阿夫利神社秋期例大祭	8月27日に開催。大行列をなす神輿渡御から、地域の歴史・文化を感じられる。	P36 参照
		12	大山新道のおかめ桜の並木道	3月上旬に開花。大山新道を、約300mに渡り約160本のおかめ桜が彩る。	
13		日向の棚田と彼岸花	かながわの花の名所100選に選定。9月中頃から咲きはじめ、棚田の畔や土手などを真紅に染め上げる。		
高部屋	14	総合運動公園の桜並木	総合運動公園はかながわの公園50選に選定。大山を背景にした桜並木は、昼と夜（ライトアップ）とで違う景観が楽しめる。	P37 参照	
	15	総合運動公園のイチョウ並木	敷地南側に約200m続く並木道。丘陵地にあるからこそ深い色味をもち、散策路では落ち葉による絨毯のような景観を楽しむことができる。		
比々多	16	聖峰からの眺望	標高約380mの比較的容易に登れる優れた眺望。	P37 参照	
	17	三之宮比々多神社春季例大祭	4月22日に催行され、神奈川の祭り50選に選定されている。豊作などを祈願し、地域の人々が勇ましい掛け声とともに神輿を担ぐ。		
	18	廻り地蔵	保国寺周辺の百か村を巡った地蔵尊。古き良き歴史・文化が継承されている。		
	19	善波の矢倉沢往還	東海道の脇往還として機能していた古道。石仏や馬頭観音、善波川の風景が見られる。		
	20	三之宮比々多神社	正面入口には鳥居と杉の大樹が立ち、社殿とともに厳かで風格ある景観が見られる。	P38 参照	
	21	三之宮比々多神社元宮からの眺望	三之宮比々多神社から約500mの高台にある同神社の旧社殿の跡地で、相模湾を望む180度の眺望を楽しむことができる。		
	22	三嶋神社の枝垂れ桜	3月末の大祭の頃が見ごろ。高台の神社の佇まいとも調和している。		
成瀬	23	能満寺の紅葉	11月末～12月上旬にかけて境内が赤く染まり、参拝者を楽しませている。	P39 参照	
大田	24	市民の森ふじやま公園	梅・桜の名所。新東名、伊勢原大山IC等の眺望を楽しむことができる。		
その他	25	渋田川の芝桜と桜並木	かながわの花の名所100選に選定。4月中頃に、水辺から4mほどの斜面約350mに色とりどりの芝桜が咲き誇る。	P39 参照	
	26	さとの田園風景	市街地周辺の田園風景。農作物の成長による景観の移り変わりの風景から、四季の存在とその素晴らしさを感じさせられる。		
	27	大山の眺望	大山の眺望は、1年を通してその表情が変わり、市内のどこから見ても素晴らしく、市民に最も身近で親しまれている景観資源であるといえる。		
	28	小田急線のある風景	市街地の中心を東西に横断する小田急線のある風景は、多くの市民の記憶の中に残る景観となっている。		

(2) 地域景観資源の位置

地域景観資源の位置を、下図内の番号（32 ページの一覧表参照）で示しています。本市では、大山の眺望や祭りなどの地域の伝統文化、暮らしが織りなす生活風景や市民活動なども景観を形成する重要な要素として地域景観資源に位置づけており、それらの資源については明確に場所を示すことが困難なため、参考として関連する位置を示しています（下図内では括弧書きの番号で表示）。



■ 図一 地域景観資源の主な位置図

(3) 地域景観資源の解説

地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
大山	1	大山山頂からの眺望	 <p>秀峰大山の山頂は海拔1,252m。晴れた日の眺めは絶景です。この眺めを見るため、1年を通じて多くの登山者で賑わいます。相模湾を一望でき、新宿の高層ビルなども見ることができます。また、富士山や丹沢連峰を一望する眺めも、素晴らしいものがあります。登ってきた苦勞を吹き飛ばす、圧巻の眺望が楽しめます。</p>
	2	大山阿夫利神社下社からの眺望	 <p>大山の中腹にある「大山阿夫利神社下社からの眺望」は、「ミシュラン・グリーンガイド・ジャポン」で2つ星（寄り道する価値がある場所）の評価を得るなど、内外から高い評価を受けています。また、江の島や三浦半島はもちろん、房総半島や伊豆大島までも眺めることができます。初日の出や夜景なども楽しめる、誰もが必ず満足する伊勢原を代表する眺望景観です。</p>
	3	大山寺の紅葉	 <p>大山寺は、755年に良弁僧正により開創されたといわれ、関東三大不動の一つであるとともに、不動明王、二童子像は、国の重要文化財に指定されています。深紅に染まる大山寺の紅葉は観光名所として毎年多くの来訪者が訪れています。秋の伊勢原を代表する景観であり、昼と夜（ライトアップ）で違う景観が楽しめます。伊勢原でしか見ることができない景観であり、来て（行って）良かったと思える（思ってもらえる）場所として市民の評価も高い景観です。</p>
	4	大山阿夫利神社下社	 <p>大山阿夫利神社下社は、大山の中腹、標高約700mに位置します。創建は紀元前97年崇神天皇の頃と伝えられ、徳川家代々の将軍も信仰し、武運長久を祈ったといわれています。江戸時代には気軽に行楽と信仰を行える地として人気を博し、人々は「講」という組織をつくり大山への参拝をしました。国定公園でもある大山の豊かな自然の中に位置するため、新緑、夏山、紅葉、雪景色と季節により異なる情景を楽しむことができます。</p>
	5	大山絵とうろうまつり	 <p>毎年8月中旬に開催され、今年で15周年を迎えるお祭りです。「光の回廊」は、江戸時代に行われた大山詣りの際、人々の道しるべとなった街道の常夜灯にちなんだ演出となっています。店舗や施設など地域一体で製作した大きな「絵とうろう」や地元の小中学生が製作した「牛乳パックとうろう」などが約3kmにわたり、大山阿夫利神社からの夜景とともに演出し、魅惑的な景観を作り上げます。</p>

地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
大山	6	大山桜	 <p>「大きな山桜」という意味に由来する大山桜は、例年4月頃に見頃を迎え、地元住民や多くの観光客を魅了します。樹齢400年を超える4本の大木が急斜面に垂直に立ち、可憐な桜の美しさと太い根で大きな幹を支える力強さを見ることができます。</p>
	7	こま参道	 <p>千代見橋から元滝まで続く階段の参道は、大山の門前町として江戸時代から参拝客で賑わいました。今でも当時の面影を残す参道は、かつて「こま」などの玩具や「お盆」などの生活雑器などを作っていた木地師たちの店が数多く軒を並べていたことから、このように名付けられました。こま参道では、土産物屋のほか、木地師による「こま」づくりを見ることができ、名物のとうふ料理を味わうこともできます。沿道は、先導師旅館(宿坊)が軒を連ね、講名や人名の刻まれた玉垣や石垣などが印象的なまちなみとなっています。参道は、総数362段の階段と、27の踊り場からなります。踊り場には「こま」をデザインしたタイルが貼ってあり、階段を上がって次の踊り場へ行くと「こま」の数が1つずつ増えていく遊び心も見られます。</p>
	8	とうふ坂	 <p>とうふ坂は、良弁滝バス停付近からこま参道の下、鈴川に架かる千代見橋までの約300メートルの旧参道です。江戸時代には、参詣者たちが手の上に乘せた豆腐をすすり、喉の渇きを潤しながらこの坂道を上ったと伝えられていることから、この名がついたとされています。沿道には、講名や人名の刻まれた玉垣や石垣、大山講の人たちが寄進した登拝記念の石碑などがある先導師旅館(宿坊)が軒を連ねています。こうしたまちなみは、粋な江戸文化や気質とともに、江戸時代に隆盛を誇った大山詣りの風情や江戸情緒を感じさせる印象的なものとなっています。また、沿道の中腹には、軒下に掲げられた今では数少ない「大山講の板まねき」を見ることができます。</p>
	9	良弁滝(ろうべんだき)と開山堂	 <p>開山堂は、大山寺開山の祖、奈良・東大寺の初代別当、良弁僧正を祀るお堂です。鈴川のほとりに建ち、堂内には43歳と伝わる良弁像と猿が金鷲童子(こんじゅどうじ)を抱いた像が安置されています。その横には良弁滝があり、良弁僧正が禊(みそぎ)をしたとされています。江戸時代、大山詣りの人々は、登拝前に滝に打たれ禊ぎを行い、心身を浄め衣衣を纏い、山頂の石尊大権現を目指しました。今でも、二重滝や、水垢離の名残を感じさせる元滝(もとだき)、良弁滝、愛宕滝(あたごだき)、大滝などが現存しており、かつてはどれも大勢の人が一度に入れるほど大きな滝であったといわれています。これらの滝は、江戸時代の浮世絵にもたびたび登場し、中でも良弁滝は、北斎、広重、国芳などにより数多く描かれています。</p>
	10	大山火祭薪能と能楽殿	 <p>火祭薪能のものは、大山の各家々が役割を分担し、守り伝えられてきた伝統「大山能」です。現在は、火祭薪能として、毎年、大山の秋が深まる10月初めに、阿夫利神社社務局境内地に建つ能楽殿で開催されており、市の重要無形文化財にも指定されています。パチパチと薪のはぜる音が静かに聞こえる中、「能」や「狂言」が演じられ、かがり火に照らされた能舞台は、大山の大自然を背景に幻想的に浮かび上がり、見る人たちは幽玄な世界に誘われていきます。能楽殿は、加寿美橋から愛宕橋に至る旧参道の中腹に位置しています。旧参道の沿道には、玉垣、石碑、獅子山や冠木門などを残す先導師旅館(宿坊)が建ち、大山ならではのまちなみとなっています。</p>

地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
大山	11	大山阿夫利神社秋期例大祭	 <p>明治時代から続く大山阿夫利神社秋期例大祭は、夏山期間（7月27日～8月17日）が無事に終わったことを、氏子たちが神様に感謝する祭りで、大山六町（坂本・稲荷・開山・福永・別所・新町）を挙げて行われます。毎年、8月27日に、氏子や崇敬者たちによる大山阿夫利神社下社から旧参道にある社務局までの神輿渡御（お下り）に始まり、神様が下社に戻る神輿渡御（お上り）で終わります。この間、神様が鎮座する社務局では、神楽舞や能・狂言、大山六町による御輿の担ぎ出しなどにより神様をもてなします。中でも、大行列をなす、お下り・お上りの神輿渡御は、地域の歴史・文化を彷彿とさせるものとなっています。</p>
	12	大山新道のおかめ桜の並木道	 <p>早春の大山。大山新道の約300メートルに渡り、およそ160本のおかめ桜が花を咲かせ、沿道を彩ります。例年3月上旬に開花するこのおかめ桜は、地域の地域振興団体の皆さんが中心となり、毎年植栽が行われてきたもので、長年の取組を経て、大山地区を代表する景観となりました。おかめ桜の並木道には、伊勢原観光道灌祭りで、姉妹都市である長野県茅野市の大祭「御柱里曳き行」を再現したときに使用した2本の御柱や、かつて田村通り大山道の一の鳥居の近く（現在の藤沢市の国道1号線四ツ谷交差点付近）にあった、大山道の道標などもあります。</p>
高部屋	13	日向の棚田と彼岸花	 <p>「神奈川の花の名所100選」に選ばれる日向の彼岸花は、毎年9月中頃から棚田の畔や土手などに咲きはじめ、瞬くまに真紅に染め上げていきます。その姿は、周囲の棚田の風景と見事に融合し、毎年多くの市民や来訪者を楽しませています。市内では、数少ない棚田の風景で自然や生き物が輝くこの里山の景観は、伊勢原のまちな原風景ともいえます。</p>
	14	総合運動公園の桜並木	 <p>伊勢原市総合運動公園は、体育館や野球場、自由広場等の施設がある、市内で1番大きな公園です。敷地内では、様々な花木や草花が植えられ、四季を通じて楽しむことができます。中でも、エントランスロードの桜並木は、来園者を楽しませています。大山を背景にした桜並木は、新しい伊勢原の景観スポットとなり、また、昼と夜（ライトアップ）とで違う景観が楽しめることも魅力です。特に、大山を背景にした桜並木は、新しい伊勢原の景観スポットとなっています。</p>
	15	総合運動公園のイチョウ並木	 <p>かながわの公園50選に選ばれている総合運動公園は、芝生の広場、自由広場、野球場、体育館など複数のエリアが設けられた市内最大の公園です。黄金色に輝くイチョウ並木は約200m続き、桜並木に勝るとも劣らない絶景です。散策路には落ち葉が敷き詰められ、まるで絨毯のような景観を楽しむことができます。丘陵地にあるからこそその深い色味で、市街地で見るとは違った魅力に惹きつけられます。</p>

地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
比々多	16	聖峰からの眺望	 <p>古くから不動尊が祀られている山頂広場に立つと、相模平野のまちなみと相模湾に浮かぶ湘南江ノ島が目飛び込んできます。さらに、横浜ランドマークタワーやスカイツリー、新宿副都心をはじめとする東京のビル群を眺めることができ、空気の澄んだ日（主に11月から3月）には茨城県の筑波山までをも確認することができます。また、毎年元旦には、多くの方が登頂し、江の島の左手から昇る初日の出を堪能します。その際、「聖峰世話人会」の皆様が5時に山頂に集まり、甘酒や地元産ミカンで登頂された方々をおもてなししています。同会の皆様の日頃からの整備により、絶景と自然を満喫できる場所となっており、近年では、この眺望を求め、四季を通じて多くの方々が訪れています。</p>
	17	三之宮比々多神社春季例大祭	 <p>豊作などを祈願し、約1300年前から続く年に1度の大祭で、三之宮祭の名で親しまれています。毎年4月22日に開催されており、地域の人たちが、「イヤートーサッセ（弥遠に栄えたまへ）」の勇ましい掛け声とともにお神輿を担ぎます。また、三之宮・栗原・神戸地区の3基のカラクリ人形山車や、境内で行われる伝統芸能里神楽、植木市を始めとする約200軒の露店も祭りに花を添えます。神奈川の祭り50選に選ばれています。</p>
	18	廻り地蔵	 <p>江戸時代の中頃、保国寺の孝戒和尚という住職は、子どもを大変可愛がっており、貧しい農村の子どもが病気で亡くなってしまうことが多かったことを悼んで、百体の地藏尊を造り上げました。保国寺近くの百か村に回った地藏尊の中には、今もなお、子どもの健やかな成長を願い地域の家々を廻っているものがあり、古き良き歴史・文化が継承されています。</p>
	19	善波の矢倉沢往還	 <p>矢倉沢往還は東海道の脇往還として機能していた古道で、江戸時代には大山詣りの人々で賑わいました。ルートは概ね現在の国道246号線に相当し、伊勢原市内でも所々に旧道を見ることができます。善波の矢倉沢往還は其中でも最も往年の面影を残しており、道端には石仏や馬頭観音がひっそりと佇み、木立の間からは善波川とそれに沿う水田を見ることができます。</p>
	20	三之宮比々多神社	 <p>正面入り口には、立派な鳥居と樹齢500年といわれる杉の大樹がそびえ立ち、正面に構える社殿とともに、厳かで風格のある景観を見ることができます。また、木々に囲まれた境内は、静かで穏やかな空気に包まれており、訪れる人々の心を癒やしてくれます。社殿の外観は厳かで、地域の歴史や文化を物語る重要な建造物となっています。</p>


地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
比々多	21	三之宮比々多神社元宮からの眺望	 <p>元宮は、三之宮比々多神社から約 500mの高台にある同神社の旧社殿の跡地で、小さな鳥居と石祠があります。ここからの眺望は、相模湾を望む 180 度のパノラマが展開され、本市の市街地を眼下に、晴天の日には、江ノ島や三浦半島、ランドマークタワーをはじめとする横浜のビル群までを一望することができます。2020 年 5 月に、眺望板と腰掛けが設置され、誰でも気軽に訪れることができる眺望スポットになっています。</p>
	22	三嶋神社の枝垂れ桜	 <p>神社の境内に咲く大小のしだれ桜は、平成元年に数本のしだれ桜が植栽されたことに端を発し、今に至ります。3 月末の日曜日に開催される大祭の頃に見頃を迎えるため、近年訪れる人も多くなっています。高台に位置する神社のたたずまいとマッチし、ロケーション的にも素晴らしい名所です。</p>
	23	能満寺の紅葉	 <p>能満寺は伊勢原市三ノ宮にある臨済宗建長寺派の寺院です。能満寺の紅葉は、今から 100 年ほど前に紅葉（もみじ）の寺にしたいと当時の住職が京都から持ってきた苗を育てたことにはじまりました。山門脇の大きな木がその紅葉で、いまはその子孫の紅葉も増えており、11 月末頃～12 月はじめにかけては境内が真っ赤に染まり、ハイキングや参拝の方の目を楽しませています。ライトアップにより、紅葉の色鮮やかな赤と真っ暗な夜空が美しいコントラストを描き、幻想的な雰囲気を出します。</p>
成瀬	24	市民の森ふじやま公園	 <p>市街地近郊に位置する緑豊かな公園です。また、梅・桜の名所としても知られ、四季を通じて多くの市民が訪れる憩いの場となっています。公園の高台からは、大山を背景に新東名高速道路・伊勢原大山インターチェンジ、伊勢原ジャンクションを眺めることができるなど、新たな伊勢原の景観を楽しむことができる眺望点の一つにもなっています。</p>
大田	25	渋田川の芝桜と桜並木	 <p>伊勢原市のさとの地域（大田地区）に流れる渋田川の沿岸に広がる芝桜は、「かながわの花の名所 100 選」に選ばれるなど内外から高い評価を得ています。毎年 4 月中旬ごろに、水辺から 4m ほどの斜面約 350m に色とりどりの芝桜が咲き誇ります。桜並木と合わせて多くの市民や来訪者の目を楽しませ、心を潤してくれる景観となっています。地域の方々が長い年月をかけて作り上げた景観であることも魅力の一つとなっています。</p>



地区名	NO	登録名称	景観資源の解説
その他	26	さとの田園風景	
			伊勢原市は、市域の約2割が農地となっており、市街地の周辺に田園風景が広がっています。こうしたまちの特徴から、いせはら景観写真展では、場所、時間、季節ごとに、「さとの田園風景」を映した様々な作品が寄せられています。農作物の成長による景観の移り変わりは、改めて四季の存在とその素晴らしさを実感させてくれます。大山を背景とした田園風景は、伊勢原市の原風景となっています。
	27	大山の眺望	
		秀峰大山は、海拔1,252mで、別名「あめふり山」とも呼ばれ、関東一円から古来より雨乞い信仰の山として親しまれてきました。「大山の眺望」は、いせはら景観写真展で最も数多く取り上げられる景観であり、市民に最も身近で親しまれている景観資源であるといえます。市内のどこの場所から見ても素晴らしく、1年を通じてその表情を変えながら市民の暮らしを見守っています。まさに伊勢原の宝である景観です。	
	28	小田急線のある風景	
		小田急小田原線は、伊勢原新宿間を約60分で結び、伊勢原と愛甲石田駅を合わせた乗降者数は、1日約1万3千人で多くの市民が利用しています。伊勢原市の市街地の中心を東西に走る「小田急線のある風景」は、いせはら景観写真展において、まちなみ風景をはじめ、田園風景や大山の眺望、また、東海大学病院などの施設を背景とした作品が多いのが特徴です。子どものころ、また、子どもを連れて電車を見に行ったことなど、多くの市民の記憶の中に残る景観ともなっています。	

伊勢原市景観計画

令和6年3月発行

編集・発行  伊勢原市 都市部 都市政策課

〒259-1188 伊勢原市田中348番地

TEL 0463-94-4711 (代表)

FAX 0463-95-7614

E-mail t-seisaku@isehara-city.jp
